

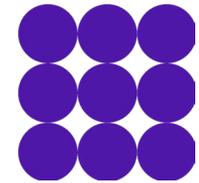
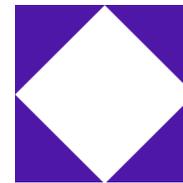
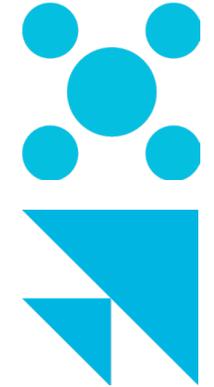
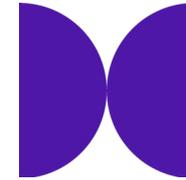
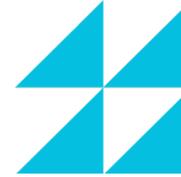
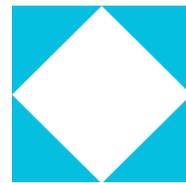
2025年AI@Work

AI4PM

キックオフ資料

2025年 1月

AI4PM リーダー 三五大輔



PM分野におけるAI環境の変化とWG2「AI4PM」の活動成果

2020年発足当初のAI環境

- 世間のAIへの認知は低い
- 一部のAI除き実用的なAIが少なく、PMに使えるようなAIがない
- AIに対する過剰な期待

AI4PM活動の成果【2020年～2024年】

- PM領域における共通フレームとしての分野のAIレベル定義の提唱
- 人材領域でのAIの適用の検討
- PMへAI適用するためのプロジェクトエンジニアリングの検討

AI環境の変化により新たな課題が発生

- AI開発への投資に対するリターンが少ない（ように思われている）
- AIツールの適用の効果がわかりにくい
- セキュリティ等による制約
- PM分野のデータの準備状況が不十分など、、、、

2025年現在のAI環境

- 世間のAIへの認知は向上
- チャットボット、タスクのトラッキング等、AIの進化
- 生成AIの劇的進化
- PM領域の**AIレベル定義を公表**

各WG 2024年研究テーマ

PMIJ Forum、およびスポンサー報告会にて広く対外へ発信

PM4AI



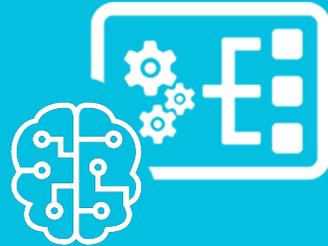
Project Management
for AI

4

テーマ別に4つのサブグループで研究を実施、月例会で共有

- D0: AIプロジェクトの進め方
- D1: 実用化～実用化後の課題
- D4: 機械学習の品質マネジメント
- E5: AIPMBOK
(AIプロジェクト知識の体系化)

AI4PM



AI for
Project Management

3

3つのサブグループに分かれて活動

- 全体: 提供可能な情報の再整理
- A: AIレベル定義の深化と認知向上
- C: 人材領域におけるAI適用の検討と試行
- D: プロジェクト・コモンデータモデル
for AIの整備

AIK4PM



AI Knowledge for
Project Managers

5

「AIを理解する3段階」を推進

1. 知る
 - ・輪講
2. 理解する
 - ・DeepLearning G検定勉強会
 - ・Python勉強会
3. 使える
 - ・AI実践
 - ・最新AI動向調査

2024年振り返り

- ① AI4PMとしてのステークホルダーへの情報提供が可能な内容の再整理
 - 積極的な外部配信とWG内へのフィードバック（フォーラム、リーダー会議、やってみよう事例の配信）
- ② PM領域におけるAIレベル定義の深化とPM分野におけるAIの活用例の収集
 - FAQ、英語版HPの公開、フォーラムでの発表
- ③ 人材領域におけるAI適用の検討と試行
 - 人材領域におけるAI適用の検討と試行の公表
- ④ AI領域におけるプロジェクトコモンデータモデルについての検討
 - 2024年の検討成果の外部発表

達成事項：外部公表の増加（kickoff含めてHPにて6件、フォーラム発表、スポンサー報告会での発表）

未達成事項：ショートサイクルでの公表

2024年までの成果

AIレベル定義の普及に向けて、PMI日本支部のHPにて公開。

<https://www.pmi-japan.org/aiatworkcommunity/page-89/>

- ・ AIレベル定義V1.0
- ・ AIレベル定義補足資料を公開



AIレベル定義

AIレベル定義とは

AIレベル定義の作成目的

多様化するプロジェクトでは、会話する人間の出身業界やマネジメント技術や知識の差より、実現方法や会話の内容の理解が異なります。



プロジェクトマネジメント活動をAI化するにあたり、ステークホルダー（例えばプロジェクトマネジャーとAIシステムエンジニア）の間で「どのように・どこまで自動化するか」といった実現論になると、その認識・認知Gapは無視できません。

そこで、ステークホルダー間で認識・認知Gapを埋めるために共通認識となる基準と基軸が必要となります。AI4PMでは、AIレベル定義は自動運転のレベル分けを参考に、マネジメント技術や知識の差があっても共通認識となる基準／基軸のためにAIレベル定義を作成いたしました。

AIレベル定義の全体構成

AIレベル定義は、「プロジェクトマネジメントのツールの技法」に対する「自動化レベルの指標」として、プロジェクトマネジメント活動が自動化されたレベルを明確に分類できる指標として作成いたしました。



2024年成果（その1）

AIレベル定義の公表後のフォーラム等での質問をベースに、よくある質問と回答をFAQとしてまとめ、PMI日本支部のHPにて公開。

<https://www.pmi-japan.org/aiatworkcommunity/page-89/page-208/>



AIレベル定義Frequently Asked Questions(FAQ)

AIレベル定義に寄せられる代表的な質問とその解答をFAQとしてまとめました。FAQは随時追加していきます。

No.	質問	解答
1	AIレベル定義はPMBOK第7版に対応していますか？	PMBOKの第6版と第7版の一つの違いは、10の知識エリアから8つのパフォーマンス・ドメインとなったことですが、両者間で項目は大きく変わらないため、第7版にも対応可能です。
2	AIレベル定義はプロジェクトマネージャーが対象ですか？	AIレベル定義の補足資料等ではプロジェクトマネージャーを主体に記載していますが、プロジェクトマネージャーにのみならず、すべてのステークホルダーが対象です。
3	AIレベル定義の使い方について教えてください。	例えばAI導入の時に、関与するステークホルダーの課題認識の違い、解決手段の違い、環境の違いにより議論がかみ合わないことがあります。そのようなときに、共通の認識の軸としてAIレベル定義を用います。
4	AIレベル定義はどのように作られましたか？	多様な業界のプロジェクトマネジメント経験者があつまり、2020年から検討して、現在の形になりました。
5	AIレベル定義を引用するときの引用方法を教えてください。	著作権法第32条第1項に定められた「引用」に従い、公正な慣行に合致し正当な範囲内で引用してください。引用部分を明確にし、出所を明示してください。
6	AIレベル定義はアジャイルにも適用できますか？	プロジェクトの進め方によるものではないので、アジャイルにもウォーターフォールにも適用できます。
7	AIレベル定義の特長を教えてください。	AIレベル定義の特長は以下の3つです ①プロジェクト・マネジメントの知識エリア毎に定義がある ②自動化の基準を設け、レベル分けの指標としている ③分類基準と具体例で、万人が理解できる記載としている
8	AIレベル定義の活用や内容の理解に関する支援は受けられますか？	AI@Work WG2に参加いただきご理解いただくか、活動メンバーへの質問を実施ください。
9	AIレベル定義を、WG2の中で、どのように活用されていますか？	WG2内では、各Subの検討時のベースとして、メンバー間の基本情報として活用しています。
10	レベル定義の推しは？	自動運転のAIレベル定義のように、ステークホルダー間の認識のすりあわせとして情報をまとめているため、共通認識が醸成しやすくなります。
11	今後、どういう方向に進む予定ですか？	AIレベル定義をより活用しやすくするために利用例や既往のAIについてのレベル定義の情報等を公開していきます。

2024年成果（その2）

現在の生成AI(ChatGPT,Copilot,Gemini,PMI Infinity)について、生成AIのレベル定義、および互いのAIレベルの定義を試行し、PMI日本支部のHPにて公開。

<https://www.pmi-japan.org/aiatworkcommunity/page-246/>

- PMI Infinityを除きAIレベル定義を正しく認識し、各AIについて相互でAIレベルを定義可能
- PMI Infinityでは、日本支部の活動そのものが認識されておらず、AIレベル定義を正しく認識不可
- Copilotは全般に高めの評価、ChatGPTは自身よりGemini、PMI Infinityの評価が高い
- Geminiが一番妥当的な評価をしていると考えられる



AIレベル定義の試行

AI4PMのSubAグループでは、プロジェクトマネジメント領域におけるAIレベル定義の活用を試行しています。

1. 事例紹介

生成AIによるAIレベル定義の検証

プロジェクトマネジメント領域におけるAIレベル定義にて生成AIのレベル定義、および互いのAIレベルを定義させました。使用した生成AIは、「Microsoft copilot」、「PMI Infinity」、「Chat GPT4.0o」、「Google Gemini」となります。まずChat内でAIレベル定義を認識させることで、AI自身にAIレベルを認識させ、その定義を用いて各生成AIのレベル定義を実施しました。なお、生成日は2024/8/3となります。

生成AIへの質問

質問1：PMI日本支部のAI@Workが提示するAIレベル定義について教えてください

質問2：上記AIレベル定義を用いて、〇〇（「Microsoft copilot」、「PMI Infinity」、「Chat GPT4.0o」、「Google Gemini」）がどのレベルに該当するか教えてください。

生成AIによる回答

「Chat GPT4.0」、「Copilot with Bing Chat」、「Google Gemini」、「PMI Infinity」での回答の要約を下表に示します。なお、PMI Infinityの評価で【評価できず】と記載があるところは、PMI InfinityにてAIレベル定義を定義できず、その結果各AIのレベルが定義できなかったことを示します。

被評価AI		ChatGPT	Copilot	Gemini	PMI Infinity
被評価AI	ChatGPT	主にレベル2とレベル3の間に位置	主にレベル2とレベル3の間に位置	主にレベル3とレベル4の間に位置	主にレベル3とレベル4の間に位置
	PMI Infinity	評価できず	評価できず	評価できず	評価できず
	Copilot	レベル4に該当	レベル4に該当	レベル4に該当	レベル4に該当
評価AI	Gemini	レベル2の「部分的な自動化」を超え、レベル3の「高度な自動化」に該当	レベル3の「高度な自動化」に該当	レベル3の「高度な自動化」を秘めている完全な自動化（レベル4）を実現するためには、さらなる技術的なブレイクスルーが必要	レベル3の「高度な自動化」に該当

2024年成果（その3）

2024年日本フォーラムにて、PMIのCEOに事例紹介したときに、英語版の公開の必要性を痛感し、英語版のHPを作成。今後、公開するコンテンツも英語版も作成していく予定

<https://www.pmi-japan.org/aiatworkcommunity/ai-level-definitions-for-project-management/>



AI Level Definition in Project Management

AI Level Definition

Purpose of AI Level Definition

In diverse projects, variations in stakeholders' industry backgrounds, management skills, and knowledge can lead to different interpretations of implementation methods and discussions.

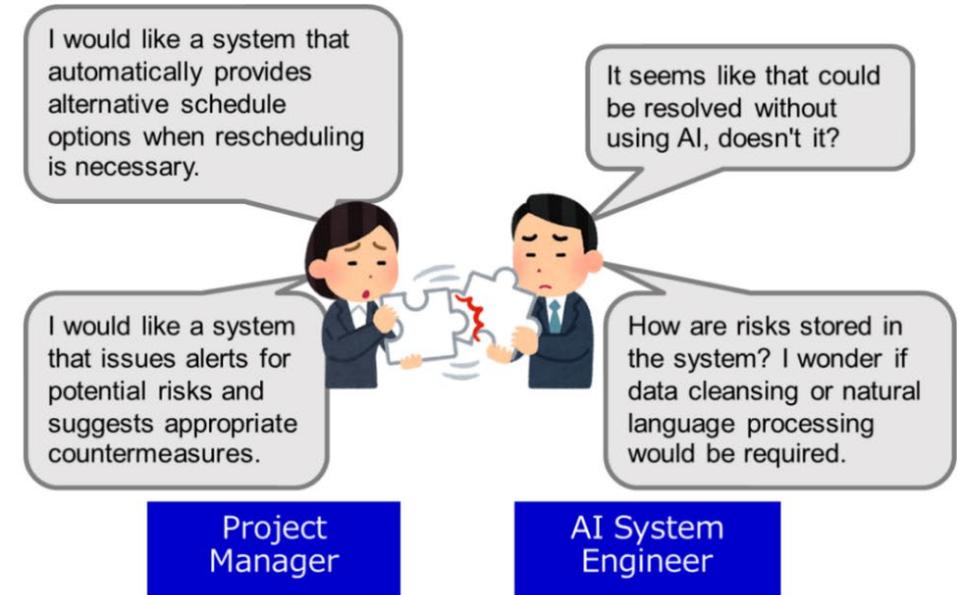


image001e.png

When automating project management activities, it is crucial to address the understanding gaps between stakeholders, such as project managers and AI system engineers, concerning “how” and “to what extent” automation should be implemented.

To bridge these gaps, AI Level Definition were developed as a standardized framework, inspired by the levels of autonomous driving. This framework helps establish a common understanding, regardless of differences in management skills or knowledge.

Overall Structure of AI Level Definition

AI Level Definition provide clear benchmarks for the level of automation achieved in project management tools, categorizing the extent of automation with precise criteria.

2024年成果（その4）

人材領域におけるAI適用の検討の一例として、生成AIの比較を行い、PMI日本支部のHPにて公開。

<https://www.pmi-japan.org/aiatworkcommunity/page-217/>

- PMI Infinityは、PMBOKの重要なプロセスからの回答と思われ、PMIらしい解答
- Copilot、Chat GPTはビジネススキルの必要性に触れているが、PMI Infinityは触れていない。
- 実際には、PMBOKの領域だけでなく、ビジネス、問題解決力等が必要であり、提示したシステムスコープを反映した3つの回答ではChat GPTが適している

→現状ではPMI Infinityには課題が多い



人材領域におけるAI適用の検討と試行

AI4PMのSubCグループでは、人材領域におけるAI適用の検討と試行を行っております。

1. 事例紹介

PMコンピテンシーについて生成AIに質問した事例の紹介

生成AIは、PMコンピテンシーに対してどの程度適切な解を提示できるかを試行した事例を紹介します。

生成AIへの質問

S県にある中規模地ビール会社では、新たにAIを用いた地ビールの需要予測システムを構築することになった。プロジェクト期間は半年、予算は5000万円である。このプロジェクトのプロジェクトマネージャーに必要なコンピテンシーを提示してください。

生成AIによる回答

今回は、「Copilot with Bing Chat」、「Chat GPT3.5」、「PMI Infinity」で試行しました。各生成AIの回答を下表に示します。なお、【回答なし】と記載があるところは、その生成AIでの回答がなかったものを示します。

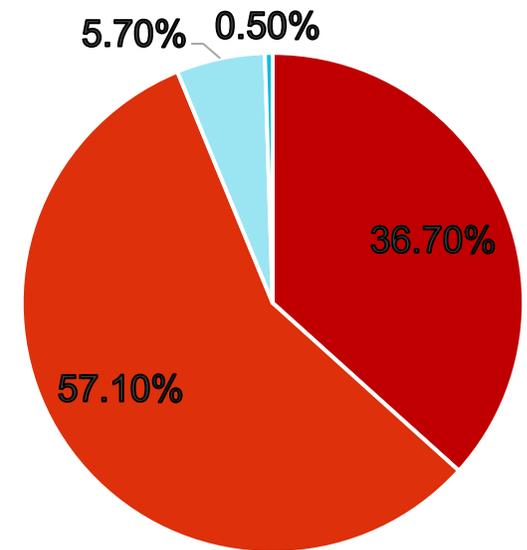
回答項目	Copilot with Bing Chat (2023.10.26生成)	Chat GPT 3.5 (2023.10.26生成)	PMI Infinity (2024.3.5生成)
プロジェクトマネジメント能力	プロジェクトマネージャーは、プロジェクトの目標を達成するために、計画、実行、監視、制御、そして閉鎖の各フェーズでスキルを発揮する必要があります。プロジェクトマネージャーは、予算、スケジュール、リソース、品質、リスクなどの要素を管理し、プロジェクトの成功を確保するためにチームと協力して作業します。	プロジェクトマネージャーはプロジェクトの計画、実行、監視、および制御を行う必要があります。プロジェクトのスケジュールと予算を管理し、成果物の納品を確保するためのスキルが必要です。	プロジェクトマネージャーは、プロジェクトを効率的に計画、実行、監視するためのプロジェクト管理理論、ツール、および深く理解している必要があります。
コミュニケーション能力	プロジェクトマネージャーは、チームメンバーや上司管理職とのコミュニケーションを円滑に行う必要があります。また、プロジェクトの進捗状況や問題を報告し、解決策を提供することも求められます。	プロジェクトマネージャーはステークホルダーとの効果的なコミュニケーションを確保し、プロジェクトの進捗状況や課題を適切に伝える必要があります。	プロジェクトマネージャーは、利害関係者、チームメンバー、ベンダーと効率的にコミュニケーションするための強力なコミュニケーションスキルを持つ必要があります。
リーダーシップ	プロジェクトマネージャーは、チームメンバーを指導し、彼らが最高のパフォーマンスを発揮できるように支援する必要があります。また、プロジェクトの目標や方針を明確に伝えることも求められます。	プロジェクトマネージャーはチームを指導し、協力を促進し、メンバーの役割と責任を明確にする必要があります。チームのモチベーションを維持し、コミュニケーションを円滑にするスキルが必要です。	プロジェクトマネージャーは、プロジェクトを効果的にリードし、プロジェクトが成功裏に完了するための強力なリーダーシップスキルを有する必要があります。

ビジネス知識	プロジェクトマネージャーは、ビール製造業界に関する知識や経験があることが望ましいです。また、ビール市場や消費者動向などの情報を収集し、需要予測システムの開発に役立てることも求められます。	地ビール業界やS県の市場に関する知識があり、需要予測システムがビジネス戦略にどのように適合するかを理解していることが重要です。	回答なし
技術的知識	AI技術に関する知識や経験があることが望ましいです。また、データ分析や統計学などの技術的なスキルも必要です。	回答なし	プロジェクトマネージャーは、需要予測システムの開発を効果的に管理するために、AIと機械学習テクノロジーを十分に理解している必要があります。
AI理解と専門知識	回答なし	地ビールの需要予測にAIを使用するため、AI技術と機械学習の基本的な理解が必要で、AIに関する知識と経験があることはプロジェクトの成功に不可欠です。	回答なし
リスク管理	回答なし	プロジェクトマネージャーはリスクを識別し、評価し、適切な対策を立案する必要があります。プロジェクトのスケジュールや予算に対するリスクを最小限に抑えるための戦略を策定します。	回答なし
問題解決能力	回答なし	プロジェクトマネージャーは予期せぬ課題や障害に対処するための能力が必要であり、迅速かつ効果的な解決策を見つけるスキルが求められます。	回答なし
プロジェクトの適切な文書化	回答なし	プロジェクトの進捗状況、予算、リスク、変更履歴などの文書を適切に管理し、報告書を作成するスキルが必要です。	回答なし
予算管理	回答なし	回答なし	プロジェクトマネージャーは、予算を管理し、割り当てられた予算内でプロジェクトが完了していることを確認する経験が必要です。
時間管理	回答なし	回答なし	プロジェクトマネージャーは、プロジェクトのタイムラインを効果的に管理し、割り当てられた時間枠内にプロジェクトが完了するようする必要があります。

2024年振り返り（フォーラムでの反応）

全体的には高評価(93.8%)。AI領域におけるプロジェクトコモンデータモデルについての検討への興味が高い。マイナスのコメントの中には見るべき意見も多い。

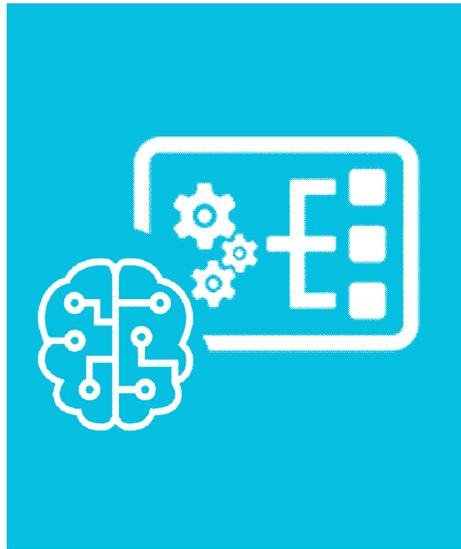
- AIレベル定義は使い物になるか？
- 何故それを検討しているのかが伝わりづらく、部外者には内容が把握しづらかった。
- あくまで研究目的で実務的ではないと感じた。
- 消化不足
- 内容も本当に実現できるの？というようなものも少なくなかった。
- 成果がでなかった説明や、こうしたいという思いは伝わったが正直得るものは少なかった。



■ 大変良かった ■ 良かった ■ 良くなかった ■ 全く良くなかった

2025年は、現在の研究に加え、**現在のプロジェクト・マネジャーが利用可能な情報の提供**のよう
なより実務的な情報の提供も進めていく

2025年のAI4PMの活動方針



AI4PM(WG2)の全体目的

プロジェクトマネジメントを最適化するために、AI技術の適用方法を研究する。

2025年活動の具体的な内容

1. AIの最新状況の共有とワークショップによる情報共有(WG2全体)
2. AIレベル定義を軸としたフレームワーク整備【継続】
3. グローバル調査とAIレベル定義の整備【新規】
4. プロジェクト型組織の課題解決へのAI適用【継続】
5. PJマネジメントに関するAIデータモデルの仮説検証【継続】

2025年のSub A:「AI-PM推進研究グループ」の活動内容

→2026年以降

AIレベル定義を軸としたAI導入・運用に向けたフレームワーク作り

1 st.
フレームワーク作成

2024年度振り返り (1~3月)

- AIレベル定義とソリューションを評価する内容

AI導入・運用に向けたフレームワーク作り (4~6月)

- プロジェクトマネジメントにAI導入・運用に必要な内容の整備

2 nd.
ツール作成

プロジェクト計画 (7~8月)

- 4月~6月で作成したフレームワークを活用して、プロジェクトを計画

ツール作成 (9~12月)

- プロジェクトマネジメント領域におけるAIレベル定義とソリューション検討を活かしたツール作成を実施

3 rd.
活動の継続・事例作成

- 継続的なフレームワークやベネフィットの共有。
- 継続的な評価と改良
- 新たなプロジェクトとして事例作成

Sub A : AI-PM推進研究グループ

ビジョン

プロジェクト・マネジャーがAIを活用してプロジェクトマネジメントを効率化・高度化できる環境を構築し、その成果を通じて持続可能な価値と革新を創出する。

2025年度の目標

Sub Aを1つのプロジェクトとして位置付け、プロジェクト領域におけるAIレベルの定義を軸にプロジェクトマネジメント用のツールを作成する。そこから得られた結果を基にAI導入を検討し、ベネフィットやフレームワークを共有する。

価値の少ない仕事

適切なAIシステム

価値ある仕事へ



プロジェクトマネジメント
領域における
AIレベル定義



2025年のSub B:「グローバル調査とAIレベル定義の整備」の活動内容

→2026年以降

グローバル調査
AIレベル定義の整備
を軸に活動する

1 st.
グローバル調査

2024年公表のグローバルのレポート等をベースに、グローバルの状況を調査する。

2 nd.
AIレベル定義の整備

1st.の調査結果をもとに、AIレベル定義を整備(主と更新作業)を行う。また、AIレベル定義普及に向けた検討を実施する。

3 rd.
2025年度活動の更新

上期に前年度のグローバル調査、下期に調査結果をもとにしたAIレベル定義整備を実施する。

Sub B: 「グローバル調査とAIレベル定義の整備」の活動内容

グローバルの研究とWG2の研究を比較検討し、WG2活動に反映

- 活動1：グローバルの調査

- 「Artificial Intelligence and Project Management – A Global Chapter-Led Survey 2024」 と PMIの「Artificial Intelligence in Project Management」 をベースに、グローバルの調査結果を理解し、AI4PMに適用可能な事例をまとめる。

- 活動2：AIレベル定義の整備

- 活動1の調査および2024年のWG2報告結果をもとに、AIレベル定義の整備（主に更新やレベル4以降の検討）を実施する。

- 活動3：プロジェクト・マネジャーに向けた情報発信

- プロジェクト・マネジャーが現在のAIを利用するための指針を提供

2025年のSub C:「プロジェクト型組織の課題解決へのAI適用」の活動内容

→2026年以降

プロジェクト型組織の運営課題へのAI活用

1 st. 課題リスト、仮説設定

- ・「人材領域」に関する2024年の生成AI試行結果のまとめ（～2025/3）
- ・「組織運営」に関する、AIを活用して取り組みたい課題のリストアップと仮説設定（～2025/6）

2 nd. AI試行、ガイド案作成

- ・上期で設定した「組織運営」に関する課題と仮説に対して、主に生成AIを活用しての試行、結果検証（～2025/12）
- ・「人材領域」「組織運営」上の課題に対して、主に生成AIの活用で取り組むことに対するガイド案の作成（2025/10以降）

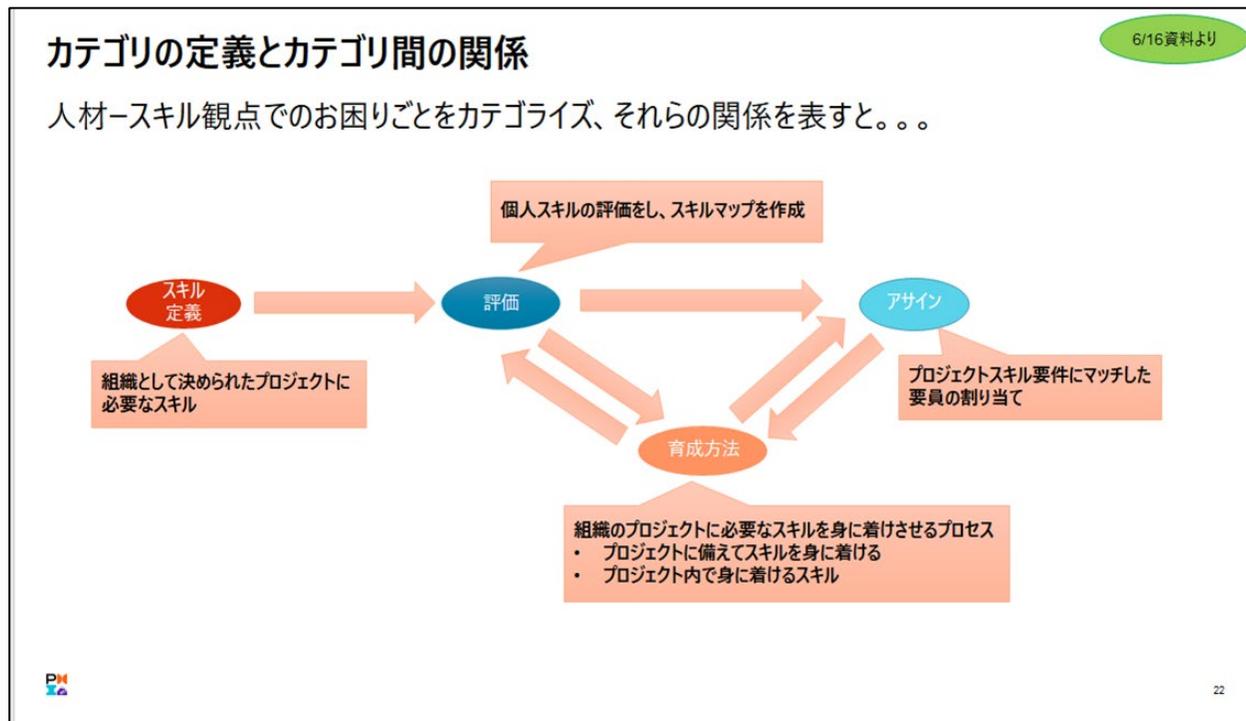
3 rd. AI活用ガイドライン発行、他

- ・プロジェクト型組織のお困りごと、課題に対して、主に生成AIを活用して取り組むことについてのガイドライン発行（～2026/6）
- ・主にPMO組織をターゲットにした、生成AI活用によるプロジェクト課題解決の取り組みの検証実践やトライアルの実施（2026/7以降）

SubC : プロジェクト型組織の課題解決へのAI適用

特定領域課題（人材、組織、PMO）へのAI活用研究

- 「人材領域」へのAI活用（～2024） : 下記検討モデルにおけるAI活用検証



<取り組んだテーマ（「生成AI」に対して情報提供を要求）>

- ・プロジェクトマネジャーの育成計画
- ・プロジェクトマネジャー適正診断
- ・PMコンピテンシーの整理と評価（特定領域で検討）
- ・プロジェクト要員の募集
- ・プロジェクト計画の妥当性評価

など

<主な評価>

- ・そもそも論として、使える情報を引き出すには「生成AI」の特性も見極めて、聞きたい内容を段階的に聞いていく必要がある
- ・使う「生成AI」のツールによっても得られる結果に内容差異がある（現時点でPMIのInfinityは、まだまだといった印象）
- ・得られた結果については、個々の内容は妥当な内容だったが、「人材領域」のお困りごと解決には、やはり人の情報判断が不可欠であり、回答をそのまま活用できるレベルには至っていない

- 「プロジェクト組織」の課題に対するAI活用の検証（2025～）

- ・ 想定する課題・・・ 1) コミュニケーション不足、2) 不適切な人員配置、3) 組織のスコープ不明瞭、4) リスク管理が困難、5) 不適切な予算管理

など

2025年のSub D : 「PJマネジメントに関するAIデータモデルの仮説検証」の活動内容

PJマネジメントに関するAIデータモデルの仮説検証

Play Bookらしく、初心者がたどりやすい&シンプルな資料の作成

1 st.
Play Book作成 その1

PJマネジメントにAI適用するためのPJ-Eng概論
PJにAI適用するための原理とプロンプト解説書 (Requirement, PBS, F-WBS)

2 nd.
Play Book作成 その2

PJにAI適用するための原理とプロンプト解説書 (リスク、WP名寄せ)
AI活用のためのデータモデルのまとめ→実施内容までのデータモデルを考察・提言する

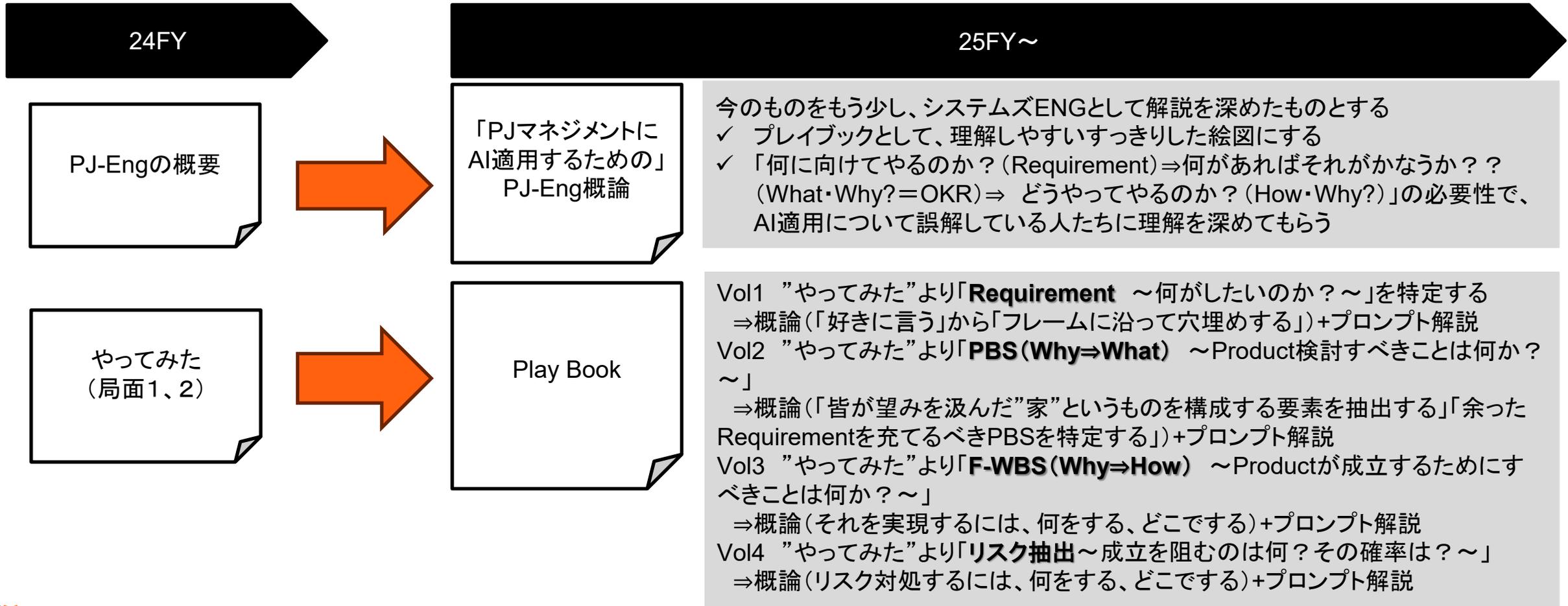
3 rd. 解説領域の拡大

実行フェーズ (Controlフェーズ) におけるAIの実施
⇒実行状況を観察・洞察するAIとは? (IoT的AI活用)
⇒ターゲットからずれてしまった時の対処 (演算&変更提案)

PJマネジメントに関するAIデータモデルの仮説検証-検討-提起活動

Play Bookを作ってみよう

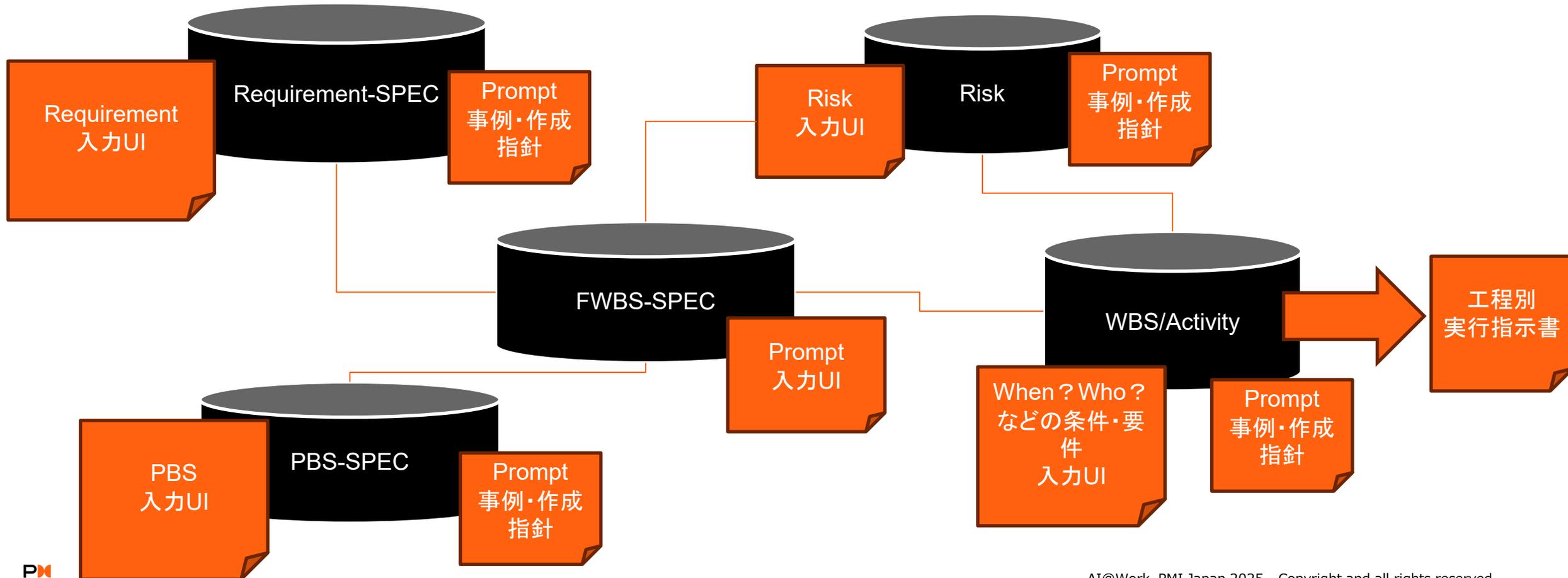
7月のフォーラムの反応から、「使えるAIそのもの」ではなく、「実際にPJにAIを適用するための原理と、その方法論」を知りたい人が多いと感じている。このため、25FYは、「PJマネジメントにAIを適用するための」のPlay Bookの整備を目標として活動する



PJマネジメントに関するAIデータモデルの仮説検証-検討-提起活動

いよいよPJマネジメントに対し、AIを活用するためのデータモデルをまとめ上げる

“やってみた”の仮説からPJMIにAIを適用するのによさそうなデータモデルを描いてみる
⇒PJ-Eng仮説検証をもとに、「PJマネジメントに対し、AIを活用するためのデータモデル」をまとめ上げる。(データモデルとツールと技法をセットにまとめ上げる)



最後に

AI4PM(WG2)では参加者を随時募集しています。

プロジェクト・マネジメント分野へのAI適用について興味がある方

プロジェクト・マネジメント分野へのAI試行について興味がある方

AIレベル定義、プロジェクト型組織へのAI適用、コモンデータモデル検討に興味がある方

ぜひ、一度月例会に参加してみてください。

月例会：毎月第1火曜日or水曜日(TBD) 20：00～21：00（オンライン）

本資料および動画の著作権について

本資料および動画の著作権は、PMI日本支部に帰属しています。

本資料および動画の一部または全部を著作権者に無許可で複製、転載、

公衆送信、口述、上映、出版、頒布、貸与、編集するなどして使用

することは著作権法に反することとなります。